

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590700138		
法人名	社会福祉法人 元気の会		
事業所名	グループホーム 元気		
所在地	山口県下松市大字山田256番地		
自己評価作成日	令和5年5月31日	評価結果市町受理日	令和5年8月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島県広島市南区皆実町一丁目6-29		
訪問調査日	令和5年7月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居様が「ここを我が家」と思って頂けるよう、役割や生きがいを持ち自分らしく穏やかな生活が送れることを目標としている。職員同士も情報交換を積極的に行い、ご入居様が出来る事を発見し、役割を持った生活を継続できるように環境作りを行っている。感染予防対策の為、外出は難しい状況だが、花見や夏祭り、花火大会など季節を感じてもらえるよう、感染リスクを考慮しながら実施している。また施設内でのレクリエーションでも季節感を大切にしており、楽しい時間を過ごして頂けるよう取り組んでいる。オンライン面会を実施しご家族との関りを継続している。食事は併設施設の厨房で調理し、温かい物・冷たい物を適温で美味しく召し上がって頂けるように提供している。健康面では常勤看護師とかかりつけ医、かかりつけ薬局で連携を行い、健康状態が維持できるように支援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人主催の認知症カフェや併設施設合同の運営推進会議等への住民参加が定着しており、会議を通じた拘束状況の意見交換ではセンサーマットの電源入れ忘れに対し助言を参考に電源確認シールを貼ることでケア改善に繋がった例もある。又、コロナ禍でも感染状況に応じ家族2人まで15分以内の面会、窓越し面会、オンライン面会等で利用者の3割と再会が実現する等、馴染みの顔や声と何気ない日常を楽しめる様に支援している。更に常勤1名の看護師の配置もあり緊急時他、適切な医療を受けられる体制を築いている。食に関しては年一回の嗜好調査で好みを反映し、食が楽しみとなる様、父の日に居酒屋風の食事をした事もある。利用者の生活歴から馴染みのある事が不安なく継続できる様、今出来る事に着目し出て自信になる様、役割・嗜好品・楽しみ事・気分転換等、張り合いや喜びのある生活作りを支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]【文字サイズは10ポイントのまま変更しないでください】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内とホールに事業所の理念を掲示し、常に目に出来るようにしている。ミーティング時などにサービスについて話し合い、理念の共有・実践に努めている。	事業所が「我が家」と思える生活作りの支援を理念とし、その支援内容と共に事務所・フロアに掲示して職員への周知を図り、ケア実践上の道標としている。毎月の職員会議の中で実践事例を通して理念の達成度を検証し、職員も年間目標を設定し半期毎の個人面談で達成度を検証している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の婦人会婦人部に所属し婦人会活動を通して地域との交流を深めている。感染予防の為、ボランティアの来訪や中学生の体験学習は中止している。感染状況を考慮しながら訪問理容の利用は継続中である。散歩時には地域の人や法人併設の児童クラブの子どもたちと挨拶を交わすなど交流している。	自治会に加入し回覧板等で地域情報を共有している。現在はコロナ禍で地域活動は自粛となっているが、散歩・受診・花見ドライブ等、日常的な外出時や法人主催の認知症カフェ・運営推進会議への地域住民参加等、相互交流もある。法人併設の児童クラブの子ども達との世代間交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月に1回認知症カフェを開催し、地域の方々に参加して頂いている。令和4年度は感染状況により何度か中止することがあったが、地域の方々に認知症に対する理解をしてもらえるように実施している。	/	/
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	ミーティングの際に管理者と計画作成担当者から、外部評価の目的や意義について説明している。評価を通して見つかった課題については、職員間で意見を出し合い、改善に向けて取り組んでいる。	自己評価は管理者・計画作成担当者が職員会議で評価の意義を説明し、職員から聴取した意見を参考に集約している。職員は評価を通して日頃の実践の課題を把握し、外部評価結果に基づいた目標に対して事業所として達成すべく具体的な改善策に対して全職員で取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	併設施設と合同で2ヶ月毎に開催している。令和4年度は感染状況により7月、9月は文書開催とした。委員に活動報告や事故・ヒヤリハット等の報告を行い、頂いた意見、要望、提案を業務に活かしている。議事録は職員間で回覧している。	会議は併設施設と合同で定期的開催し、家族代表・警察官・地域包括支援センター職員が対面又は書面参加している。会議では身体拘束状況等、活動報告や意見交換を行い、センサーマットの電源入れ忘れに対し、助言を参考に電源確認シールを貼ることで改善に繋げた例もある。	議事録は職員間で回覧し情報を共有している。又、法人系列の施設等の家族代表の参加はあるが、当該事業所の参加していない家族との事業所運営の情報共有が不十分である。今後はコロナ禍で参加できない家族との情報交換の仕組み作りを通して更なる会議の活性化を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居者の相談や情報交換など、必要時に適宜電話や直接訪問して連携を図っている。また地域包括支援センターとは運営推進会議時に助言を得るなどして連携を図っている。	地域包括支援センター職員は定期的に運営推進会議に参加しており、運営情報を共有している。又、市担当課とは日頃から介護保険制度等に関する相談や報告、行政主催の研修会へのオンライン参加、市が実施主体である認知症カフェを併設施設で開催する等、関係構築に努めている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束や虐待について定期的に内部研修で学んでいる。また、法人施設と合同で開催される委員会に委員が参加し、他の職員に報告し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。ご入居者が外に出たい場合は職員と一緒に出かけたり、話を傾聴して不安を軽減できるように努めている。	年4回の母体法人の事故対策委員会に事業所職員が担当委員として参加し身体拘束状況を検証している。委員会報告、年2回の内部研修、毎月の職員会議等を通し職員は「拘束をしない」必要性を認識して具体的なケアの中で実践を重ねている。日中は玄関を施錠せず見守り対応である。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様に虐待防止についても定期的に内部研修を行っている。また虐待に繋がる不適切なケアがないかミーティング時などに職員同士で話し合うようにしている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されているご入居者がおられるため、その方への対応も含めて職員に理解してもらうように説明している。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改定時には文書に基づき対面説明し、ご入居者・ご家族に理解と同意が頂けるようにしている。医療連携や重度化・看取りについても同様に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・苦情の受付体制や手続きを、契約時にご家族に説明している。ご家族に定期的に連絡を行っており、その際に意見や苦情があれば伺いサービス向上や運営に反映できるように職員と共有、確認を行っている。	利用者の意見は日々の会話の中で把握し、家族とは面会時・受診時・運営推進会議や様々な連絡手段で管理者や職員が積極的に聴く様に努めており、業務日誌の申し送り欄等に記載して迅速な対応に努めている。家族の要望により、短時間面会や事業所での窓越し面会が可能となった。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が毎月行われるミーティングに参加し、職員の意見や提案を聞いている。また管理者が年に2回は必ず個人面談を行っている。	毎月の職員会議、毎日の申し送りや随時又は年2回職員との個別面談等を通し、管理者は職員の意見を聞く機会を設け、業務上の提案等に対する支援体制を採っている。職員の提案で入浴拒否のある利用者への効果的な対応策につき、上手な職員の工夫例を共有する機会を得た。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	理事長が適宜、リーダーとの面接や行事に参加し状況把握をしている。またサービス向上に繋がるように、理事長の意向がリーダーを通して職員に伝わるようにしている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報を職員に伝え、参加の機会を提供している。研修後は研修報告書を作成し、ミーティングで報告、書類は回覧している。内部研修は感染対策の為、オンラインで行っており全職員が報告を行っている。介護技術については、適宜法人のPTから指導を受け、技術の向上に努めている。	事業所は外部研修案内の中から各自の力量に応じた研修を提案している。外部研修後の復命書を回覧し、その参加者が伝達講習を行い職員と情報共有に努めている。事業所内研修は年間計画で体系付けられ、コロナ禍のため職員はe-ラーニングにて視聴、報告書を提出している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内外の研修に参加を勧め、研修が受けやすいように研修日の調整を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人・ご家族と面談を行い、ご本人の不安な事や困っていることなど丁寧に傾聴し、信頼関係を築きながら入居の話をするようにしている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご本人・ご家族と面談を行い、ご家族の意向や、ご本人に対しての思いなどを具体的に話し合い気持ちに寄り添い信頼関係を築くように努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談でその時に利用しているサービスの状況把握を行い、入所の際に必要なサービスを実施し導入している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯物たたみ、テーブル拭き、ゴミ捨てなどを一緒に行う事で、一日の役割や生活の流れを感じてもらおうようにしている。その際、職員はご入居者に感謝の気持ちを伝え、出来たことを共感している。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在は感染予防の為、ご家族の来所が難しいがオンライン面会や日頃の様子を写真で便りにして郵送し、絆を保てるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方からの手紙が来た時には、一緒に読んで関係の理解が出来るようにしている。また年賀状や手紙の返事を一緒に書いたりしている。 コロナの感染状況により、家族2人まで15分以内の面会や窓越し面会、オンライン面会を行って、関係保持に努めている。	コロナ禍でも感染状況に応じ、家族2人まで15分以内の面会や窓越し面会、オンライン面会等で対応し、利用者の3割に面会が実現している。又、電話・手紙のやり取りの支援の他、受診、訪問理美容等、馴染みの場所で馴染みの顔や声と何気ない日常を楽しめる様に支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の程度で関わりやすいご入居者同士の関係を促したり、関りが難しい方には職員が関係調整に入り一緒に作業を行うなど孤立しないようにしている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当施設でのサービス終了時にはサマリーを作成し、継続した介護支援につながるようにしている。 また退所後も必要に応じて様子を確認し、困り事などが無いかを聞きフォローを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時フェイスシートを使用し、日々の関わりの中でご入居者様の言葉や表情などから思いや意向の把握に努めている。把握が困難な場合は、家族や関係者から聞き取りを行ったり、職員間で話し合っ本人本位に検討している。	職員は利用者と一緒に話さず中で深く関わりを持ち、思いを汲み取って職員会議・介護計画に反映する等、思いの共有に努めている。利用者の得意な家事で立案したり、関心事がわからない利用者に対し、家族情報で畑や機械編みが好きだったことから畑仕事の役割作りに繋げた例もある。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人やご家族、担当ケアマネから生活歴や家族歴、生活環境などについて聞き取りを行っている。また、入居後もご本人やご家族、担当ケアマネと連携し、情報把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の一日の生活の様子を記録に残し、心身の状態や有する力等の現状把握に努めている。変化があれば速やかに申し送りを行い、職員同士で情報交換を行って現状把握を行っている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者と担当職員が中心となり、ご家族の意向、主治医、看護師、栄養士などの意見を参考にミーティングで話し合い介護計画を作成している。毎月のミーティング時にモニタリングを行い、半年毎に計画の見直しを実施している。また、ご入居者の状態変化時はその都度見直し、現状に即した介護計画を作成するようにしている。	関係職種の意見を反映した計画原案を担当者会議で検討し家族同意を得て本案としている。毎月の職員会議でモニタリングを行い、計画作成担当者が集約して半年を基本に計画を見直している。立案の視点として「役割作り・生きがい」「自分でできる事は自分でしたい思い」を重視している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録はタブレットで行い、適宜写真を付けて伝わりやすいようにしている。就業前に口頭での申し送りに加え、タブレットの記録を確認し情報収集を行い、ご入居者のケアに活かせるようにしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご入居者それぞれのニーズを把握し、応えられるように、職員間でミーティングを行っている。歩行困難な方が畑作業を希望された際には、ホールでプランターに種まきをするなど小さな事でも柔軟に応えられるよう取り組んでいる。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は感染予防の為、地域資源のボランティアの方との行き来が難しい状況である。以前はボランティアの方々に訪問に来てもらったり、地域の行事に参加させてもらったりしていた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関から月1回の訪問診療がある。かかりつけ医や他科受診はご家族が支援しており、必要時には情報提供書を作成している。受診結果は介護記録に記録し申し送りで共有している。夜間や緊急時には常勤看護師が24時間連絡を取れるようにしており、かかりつけ医からの指示を受けられるようにしている。	利用前の主治医の受診継続も可能だが、全ての利用者は協力医を主治医としている。協力医から月1回の訪問診療、協力歯科医は適宜往診である。専門医の受診は現在事業所が支援している。又、常勤1名の看護師の配置もあり、緊急時他、適切な医療が受けられる体制を築いている。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気になる事やいつもと違うと感じた事があれば記録に残し、常勤看護師へ報告し適切な対応が取れるようにしている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入居者が入院する際にはサマリーを作成し、安心して加療が出来るよう入院先に情報提供を行っている。早期退院に繋がるように、入院中も相談員やご家族と連絡をとり状況の把握を行っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合や終末期の対応について家族に説明し「終末期の意向確認書」により同意を得ている。実際に重度化した際には、ご利用者の状況の変化に応じて主治医の意見や、ご家族とも話し合いながら方針を決め、職員で共有して対応している。	要望があれば看取りを行う方針である。利用開始時に「終末期の意向確認書」にて説明し、了承を得ている。重度化した際には家族・医師等で話し合いを行い、指針に基づき適切な支援を行う方針である。開設から数例の看取り対応を経験している。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	転倒、誤薬、行方不明等の初期対応のマニュアルをホール内に設置している他、緊急時の対応について内部研修を行い周知するようにしている。ヒヤリハットや事故については対応した職員が報告書に発生状況や対応、家族への連絡などを記録し回覧している。ミーティングで再検討し事故再発防止に取り組んでいる。	急変や事故発生時に備え、事故報告書の活用や事故対策委員会での検証を通して事案に対応している。各職員の初期対応力の平準化を図るべく、リスク管理に関して内部研修で応急救護・事故防止等を年間計画で体系付け、実践力の習得に努めている。フロア内にマニュアルを常備している。	急変や事故発生時に備えてマニュアルの整備や事故報告書の活用等を通して事案に対応している。ただ各職員の初期対応力について一定の実践力を保つ平準化に課題がある。計画・実行・評価・改善を踏まえた、体が忘れないための更なる実践力の育成に向けた取り組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、昼間と夜間を想定した火災時の避難訓練を実施している。備蓄食や防災用品を用意し、定期的を確認を行っている。備蓄食は調理や試食を行い、非常時に速やかに対応できるようにしている。	消防署の協力のもとで夜間想定、利用者も参加して火災等の災害を想定した避難訓練を併設施設合同で年2回行っている。ハザードマップでは非該当地域だが併設施設が地域の避難場所である。減災対策として事業所でローリングストックによる備蓄整備や隣接母体法人の後方支援もある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者様の一人一人の人格を尊重し、人生の先輩として敬い、誇りやプライバシーを損なわないよう声掛けや対応を行っている。不適切な言動があれば、ミーティング時などに取り上げて話し合い注意しあえるようにしている。 書類の保管場所には十分に配慮し、守秘義務は遵守している。	研修で職員の幅広い知識の習得と資質向上を図っている。尊厳に配慮してケアに関わり、利用者への言葉かけも不適切な対応にはその場で気づきを促すが、職員会議で検証することもある。呼称は全員さん付けで統一している。記録はタブレットで入力し、個人情報に配慮している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の生活の中でご本人の思いや意思が表現しやすいように声掛けを行っている。ご自分で意思決定することが難しいご入居者には、答えやすいように促し思いを引き出せるよう声掛けの仕方に配慮している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間以外は一人一人の生活ペースを尊重した支援を行っている。生活リズムを保てるように活動参加を促しているが、無理強いせずご本人のペースや希望に合わせている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回、理美容の訪問があり利用している。希望があれば毛染めもしており、いつまでも自分らしくありたいという思いを支援している。毎朝、馴染みの鏡台の前で化粧をされる方もおられ、おしゃれを楽しんで頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の管理栄養士が年一回ご入居者に嗜好調査を行い、毎月の給食会議の意見を取り入れた献立を作成している。法人の厨房で調理し、適切な温度で配食を行っている。食事形態はご入居者の状態に合わせて工夫している。ご入居者はテーブル拭き、下膳や食器洗いなど出来ることを職員と一緒にやっている。	献立は併設施設の栄養士が立て、食事は施設の厨房より届けられる。年一回の嗜好調査等で好みを反映し、季節の行事食や年に数回のおやつ作り等、楽しみとなる工夫もある。利用者も台拭き等、できる役割を担っている。又、食が楽しみとなる様、父の日に居酒屋風の食事会をした事もある。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の管理栄養士から摂取量や栄養バランスについて助言をもらい管理を行っている。また、個々の状態にあった食事を提供している。1日の食事の状態は記録に残し、継続した観察が行えるようにしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。自分で出来ないご入居者は職員がケアを行っている。また、義歯がある方については週3回消毒を行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し一人一人の排泄状態を把握したうえで、声掛けや誘導を行うようにしている。可能な限りトイレでの排泄、排泄の自立が出来るようご本人のペースに合わせた支援を行っている。	排泄記録表から排泄パターンを把握してトイレ誘導を基本とし、尊厳やプライバシーに配慮してケアに関わっている。退院時の紙おむつから紙パンツへ移行したり、夜間は良眠を優先した紙オムツ対応やセンサーマットを設置する等、利用者の状態に応じた排泄の自立支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録を確認し、定期的な排便があるか確認している。便秘の際は、かかりつけ医からの指示に従って対応している。また水分摂取を促したり身体を動かすことなどの介護支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的には入浴表に従って週2回入浴できるように支援している。ご本人の気分や体調により、入浴日や時間は適宜調整している。入浴したくないご入居者様には時間をずらしたり、声掛けを工夫するなどして柔軟に対応している。また入浴出来なかった時には清拭や更衣など行うようにしている。	週2回の午前浴を基本とし、利用者の体調や入浴習慣に合わせ、好みの湯温や時間等で柔軟に対応している。入浴は半埋め込み式家庭浴槽での個人浴だが、利用者の重度化に伴い併設事業所のリフト浴を活用したり、シャワー浴・足浴・清拭等、体に優しい入浴ケアを行っている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	固定した就寝時間は決めず、一人一人がリズムや体調に合わせて就寝している。気持ちの良い睡眠となるように室温や掛物の調整にも気を配っている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在内服している薬の情報を個人ファイルに綴じて、その都度薬の内容や効能、用法等をすぐに確認できるように管理している。服薬に変更のあった時には看護師から職員に変更理由と内容を申し送っている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除、テーブル拭き、食器洗いなどご入居者の出来ることを活かせるよう支援しているほか、日々の体操、ゲーム、創作、季節の行事、散歩等、ご入居者それぞれが楽しみや張り合いを持って過ごせるように支援を行っている。	利用者の生活歴から馴染みのある事が不安なく継続できる様、今出来る事に着目し出来て自信になる事を支援している。食事準備・掃除、法人施設のお楽しみ会等、日中の活動や夕食後の休息の中で役割・嗜好品・楽しみ事・気分転換等、張り合いや喜びのある生活作りを支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染予防の為、買い物レクは行えていないが、施設周囲を散歩したり公園で花見など外出を行い、季節を感じられるようにしている。	現在は職員と敷地内へのゴミ出し、近隣散歩・裏手の芝桜見物・受診・併設施設の仮設「元気神社」への初詣等で外出を支援している。新型コロナウイルス感染症の収束状況により、従来実施していた季節の外出行事や地域行事等で「非日常」を楽しんだり、日常的な買物等で気分転換を図りたい意向がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名の方が現金を持ち込まれているが、現在は感染予防の為買い物に出かけることが出来ない。以前は職員と買い物に出かけ、必要な物を個々で購入してもらっていた。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族より電話がかかってきた時には出て頂いたり、ご希望によってはオンライン面会を行いやりとりを支援している。年賀状を出して返事をもらい、手紙のやり取りが出来ている方も数名おられる。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには明るく開放的な雰囲気になるよう窓際にテレビやソファを配置し、ご入居者様が思い思いにゆっくり過ごして頂けるようにしている。壁面には季節の作品などを飾り、季節感を感じて頂けるように工夫している。リビングには温湿度計を置き、適切な温度・湿度で過ごして頂けるようにしている。	屋内外の花、季節行事の飾り付け、利用者様が作った壁掛け作品等で季節の移ろいが感じられるよう配慮している。利用者も洗濯物畳み・食事準備等を手伝い、生活感のある空間となっている。リビングには室内の温度差をなくし、効率良く空気を循環できるように天井ファンを設置している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間はリビングと食堂に分かれており、ご入居者それぞれが好きな場所に座って過ごしている。リビングのソファで談笑されたり、テーブルで創作や塗り絵をして過ごしたり、個々での過ごし方が出来るようにしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用していた馴染みの家具や持ち物を本人が使いやすいように居室に設置し、馴染みのある場所になるようにしている。壁には家族の写真や行事の写真、作品などを飾り、居心地の良い空間作りに努めている。	居室には貸与ベッド、洗面台他が備え付けられ、整理タンス等、使い慣れた物や家族写真等、好みの物を持ち込み居心地よく過ごせる様にしている。又、利用者によってはタンスから物を取ろうとしてベッドから転落しないように適切な距離に配置替えをしてリスク回避を図った例もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご入居者それぞれの「できること」や「わかること」をセンター方式やフェースシートで共有している。掃除やゴミ捨て等を一緒に行いながら、安全に自立した生活が送れるようにしている。		

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム元気

作成日 令和5年8月1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	急変や事故発生時の各職員の初期対応力について一定の実践力を保つ平準化がなされていない。	急変や事故発生時の対応について、計画・実行・評価・改善を踏まえた、更なる実践力の育成に向けた仕組み作り。	応急処置や初期対応について、定期的実践を含めた研修と一定の実践力があるか評価を実施する。	12ヶ月
2	5	運営推進会議に参加していない家族との事業所運営の情報共有が不十分である。	運営推進会議に参加していない家族との情報交換の仕組み作りを通して更なる会議の活性化を図る。	ご家族が面会等で事業所に来られた際に議事録を閲覧できるようにする他、電話連絡の際などに意見を伺い、介護に生かせるようにする。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。